

令和5年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」調査研究報告書

福島大学行政政策学類廣本ゼミ

×

喜多方市熱塩加納町大森集落

(夢の森花の散歩みち実行委員会)

2024年2月29日 福島大学行政政策学類廣本ゼミ

目次

1. はじめに.....	2
1-1 状況説明.....	2
1-2 調査目的.....	2
2. 熱塩加納の概要.....	4
3. 実態調査とそこからの考察.....	6
3-1 キクイモ栽培.....	6
3-1-1 主な活動.....	6
3-1-2 キクイモ栽培についてのまとめ.....	6
3-2 地域資源の活用.....	8
3-2-1 主な活動.....	8
3-2-2 地域資源の活用についてのまとめ.....	10
3-3 イベント.....	11
3-3-1 主な活動.....	11
3-3-2 イベントについてのまとめ.....	12
4. 考察（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点）.....	13
5. 参考文献・資料.....	14

1. はじめに

1-1 状況説明

私たち福島大学行政政策学類廣本ゼミは、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の受け入れ集落として喜多方市熱塩加納大森集落を選択した。しかし、大森集落が70代以上の高齢者世帯が大半であること、人口が36人であることといった集落の実情から、集落単体では調査・支援として不十分であると判断した。そのため、大森集落に居住する野邊善市氏が会長となって熱塩加納町の地域おこしを行っている地域組織「夢の森花の散歩みち実行委員会」に調査範囲を広げ、本調査の活動フィールドとした。

1-2 調査目的

私たちは上記のような理由から、大森集落を含む熱塩加納地域の地域組織「夢の森花の散歩みち実行委員会」に焦点を当て、より詳細な地域の現状把握を行うことを目的とした。高齢化や人口減少といった地域課題を抱える中、会員の方々は地域に対してどのような認識を持ちながら活動を行っているのかを理解することで、統計などでは読み取れない住民目線での地域理解を試みる。

1-3 調査方法及び活動内容

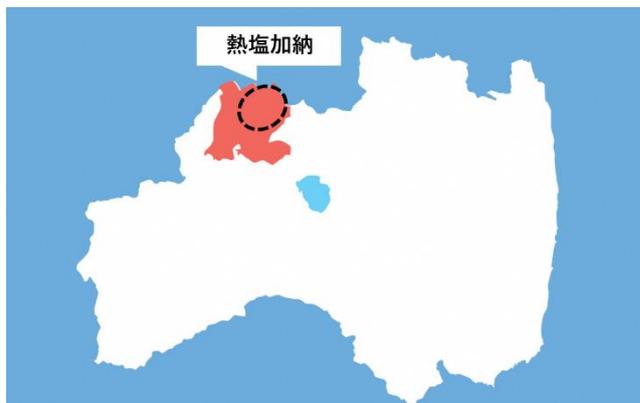
年間活動一覧

日時	活動内容
3月26日	夢の森花の散歩みち実行委員会入会 ☆キクイモ掘り
4月15日, 16日	☆夢の森花の散歩みちオープン式参加 ☆キクイモ植え付け ☆ウワミズザクラ塩漬けづくり 住民ヒアリング調査
6月17日, 18日	☆山ブドウ化粧水づくり ☆山ブドウキーホルダーづくり
7月18日	住民ヒアリング調査
9月18日	住民ヒアリング調査
10月28日, 29日	☆夢の森花の散歩みち秋祭り参加 住民ヒアリング調査
11月25日	熱塩加納調査発表会 ワークショップ参加

(本報告書では☆がついている項目について取り上げる)

私たちは「夢の森花の散歩みち実行委員会」に加入し、地域住民の会員の方々とキクイモ植えやウワミズザクラの収穫などの活動を共に行った。あわせて、喜多方市元地域おこし協力隊である森田正明氏の協力を得て、フィールドワークにおける現地観察・ヒアリング調査、民泊を実施し、住民の方々との関係構築を通じて、より住民目線での地域理解に努めた。このような調査から熱塩加納町大森集落の新たな魅力や課題解決の糸口になる要素の発見、住民目線の地域の魅力・課題に対する考え方や認識の把握を試みた。

2. 熱塩加納の概要



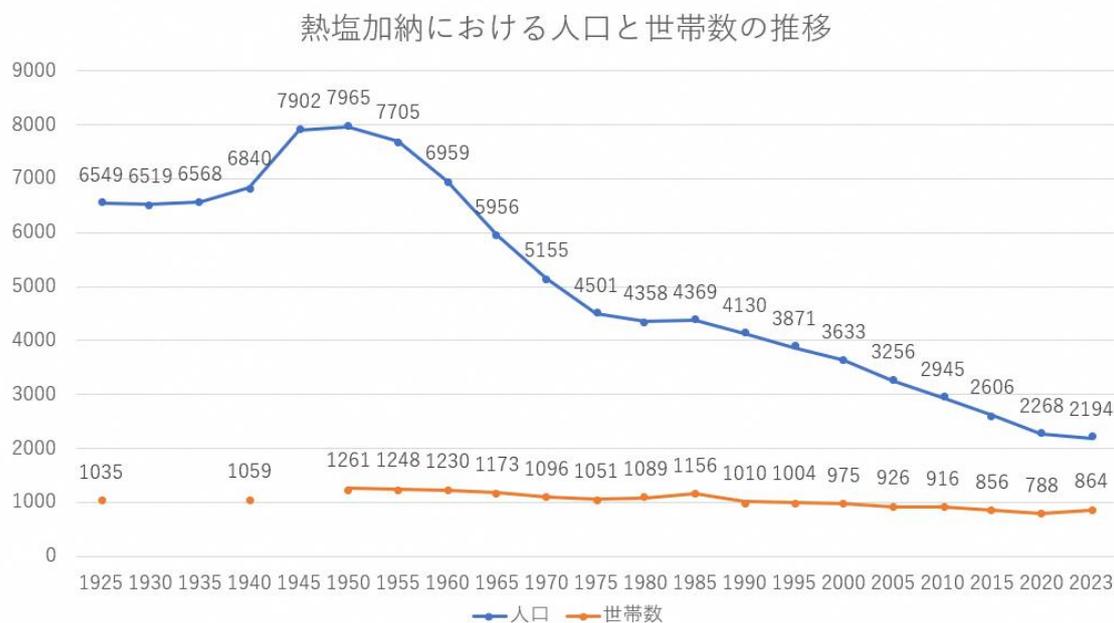
熱塩加納は、北は山形県西置玉賜郡町、北東は米沢市に境し、飯豊山、柵峰、鉢伏山、大塚山など海拔 1000m を超える高山に囲まれた 156.47 km² の地域である。

寒暖の差が地域であり、夏は気温が高く厳しい暑さが続く日もある。一方で、冬は平均 1~2m、多いところでは 3m に及ぶ大量の積雪に見舞われることもある豪雪地帯である。

(移住・定住ガイドブック「きたかたぐらし」より作成)

JR 喜多方駅からは車で 35 分かかるほど距離があるため、かつては会津加納・熱塩の 2 駅が設置されていた。しかし、鉱山の閉鎖に伴い運行本数が減少したため、1984 年に廃止された。また、路線バスも 2012 年からデマンド交通に移行している。

熱塩加納の現在の人口は 2194 人 864 世帯（2023 年 11 月末時点）、高齢化率は 2020 年時点で 43.1% となっており、人口減少と高齢化が深刻な課題となっている。



出所：統計きたかた（令和 4 年版）及び住民基本台帳から作成

高齢化率の推移



出所：令和2年国勢調査、令和4年度高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況から作成

「夢の森花の散歩みち実行委員会」は地域活性化のために活動をしており、もともとビールの原材料であるホップ畑が遊休地だったところを「熱塩加納を盛り上げたい」という野邊善市氏を中心に畑の整備を始めたところから始まった。現在の散歩みちには、野邊氏の呼びかけに賛同した81名の会員が在籍し、熱塩加納の将来について考える住民が主体となって活動している。会員の中には熱塩加納に住む人だけでなく、喜多方市市長や熱塩加納支所職員、私たち廣本ゼミなど熱塩加納の住民以外の人也在籍している。参加は原則自由となっており、自分のライフスタイルや趣味関心に合わせた活動に参加することができることが特徴である。主な活動内容として、キクイモの栽培や景観整備、イベント運営などを行っている。

3. 実態調査とそこからの考察

3-1 キクイモ栽培

3-1-1 主な活動

3月26日 【キクイモ掘り】

散歩みちの畑でキクイモを収穫した。スコップを使って掘り出し、収穫したキクイモを高圧洗浄して土を落とす作業のお手伝いをした。収穫したキクイモは夢の森花の散歩みち実行委員会の方々に調理していただき、キクイモ料理を試食した。この活動は、散歩みち実行委員会の会員の皆様と本格的に交流する初めての時であった。そのため、地域外部者の私たちを受け入れてくれるかと不安な気持ちもあったが、会員の方々は温かく迎え入れてくださった。掘り方の指導をしていただいたり、掘った菊芋と一緒に運搬したりといった協同の作業を通して順調に距離を縮めることができ、その後の調査において会員の皆様とより近い距離で活動していくための起点となった。

10月28日 【キクイモ加工食品の販売の様子】

ざる菊とココアの秋まつりでは、喜多方高校生活部の皆さんによるキクイモブラウニーやクッキーなど、焼き菓子の販売が行われた。そこでは散歩みちの会員の方をはじめ、秋祭りを機に熱塩加納を訪れた市内の方々に好評で、賑わっていた印象を受けた。

3-1-2 キクイモ栽培についてのまとめ

夢の森花の散歩みち実行委員会の活動のひとつであるキクイモ栽培は、2017年から実行委員長である野邊善市氏を中心に開始した。キクイモは、豊富な食物繊維とイヌリンによって腸内環境の改善と免疫力の向上、食後の血糖値の上昇を緩やかにするという健康効果がある。夢の森花の散歩みち実行委員会の会員が農作業で体を動かし、キクイモを食べて元気になろうという目的のもとキクイモ栽培の活動が始まった。

キクイモ栽培の活動は主に生産、加工、販売の三つに分類できる。夢の森花の散歩みち内のキクイモ畑では4月に植え付け、10月頃から収穫を始め、年間200～300kgのキクイモが収穫される。今年度のキクイモの植え付けと収穫には夢の森花の散歩みち実行委員会会員と福島県立喜多方高校の生活部の生徒、廣本ゼミが参加した。キクイモは他のイモ類と比べてでんぷん量が少ないことから長期保存が難しく、生キクイモでの販売は約5か月間しかないため、ほとんどのキクイモは乾燥パウダーや乾燥チップに加工している。キクイモパウダーやキクイモチップスは南会津町のNPO法人あたごや、田村市のわくわくあぶくま夢ファームで加工されている。夢の森花の散歩みちで収穫されたキクイモは、散歩みち実行委員会が各イベントに出店したり、福島県内のJA直売所や道の駅で販売したりしているほか、熱塩加納の学校給食にも提供している。

キクイモ栽培による効果は健康効果の高さだけでなく、地域環境の維持増進と交流の機会創出にもたらされる。まず地域環境の維持増進についてである。以前までキクイモの栽培を行っている散歩みち内の場所はビール工場のホップ畑であったが、ビール工場の撤退により景観が悪化していたが、キクイモ栽培を通じて美しい土地の景観改善につながった。

次に交流機会の創出である。福島県立喜多方高校生活部の生徒らが、キクイモをお菓子に活用したり、キクイモの風味の度合いを3段階で表したりするなど工夫を凝らしたキクイモのレシピ開発に携わっている。若者の視点が活かされた独自のレシピ集は熱塩加納地域内でも好評である。夢の森花の散歩みち実行委員会主催のイベントでは生徒たちがキクイモスイーツを販売し、キクイモを通じて高齢者と若者の交流が図られている。また、キクイモの植え付け、収穫による喜多方高校の生活部の生徒らと我々廣本ゼミ、夢の森花の散歩みち実行委員会会員らとの交流の場ともなっている。



キクイモ植え・キクイモ掘りの様子



キクイモのレシピ集、キクイモ加工品

3-2 地域資源の活用

熱塩加納地域には動植物や水資源など多くの豊かな地域資源がある。中でも散歩みち内に群生しているウワミズザクラとヤマブドウは散歩みち内の景観整備だけでなく食品、化粧品、工芸品への活用につながっている。

3-2-1 主な活動

ウワミズザクラについて

4月16日 【ウワミズザクラの花穂収穫・塩漬け】

散歩みちの畑には、ウワミズザクラが植えられている。これは人々の目に触れて楽しむことができる景観整備や観光としての目的だけでなく、お祭りなど地域の人々が集う際にウワミズザクラの塩漬けを使ったおにぎりが提供され、様々な形に活用されている。この日もウワミズザクラの塩漬けを作る目的で、300gの花穂を収穫した。収穫方法としては、枝や葉が入らないよう花穂のみを手で折り、バケツに入れて集めた。その後、調理室に移動し、塩漬けづくりに挑戦した。

工程としては、採った量を計り、塩の分量を決めるところから始まる。次に、鍋にお湯を沸かし、塩を溶かし、溶けたら冷ましておく。その後、樽の中で洗った花穂が平らになるように入れ、塩水をかける。そして、蓋をして、涼しいところで1か月ほど置くことで完成される。



左からウワミズザクラの塩漬けの様子、収穫前の実、実際に振舞われたウワミズザクラのおにぎりと団子汁

ヤマブドウについて

散歩みち内で群生しているヤマブドウは、木の樹皮、樹液、果実の三種類加工されている。樹皮はキーホルダーに、樹液は化粧水に加工されている。

6月18日 【ヤマブドウの樹液を使った化粧水・樹皮を使ったキーホルダーづくり】

散歩みちの畑には、ヤマブドウが植えられており、会員の方々はこれらを活用しアクセサリーやキーホルダー、化粧水の製造・商品化・販売を行っている。ヤマブドウは貴重で高級な資源であるため、なるべく捨てる場所のないように住民の努力のもとで運営されている。私たちは実際に、ヤマブドウの樹皮を加工したキーホルダーや樹液を使用した化粧水づくりを体験した。



ヤマブドウと樹皮キーホルダー、樹液を使用した化粧水

3-2-2 地域資源の活用についてのまとめ

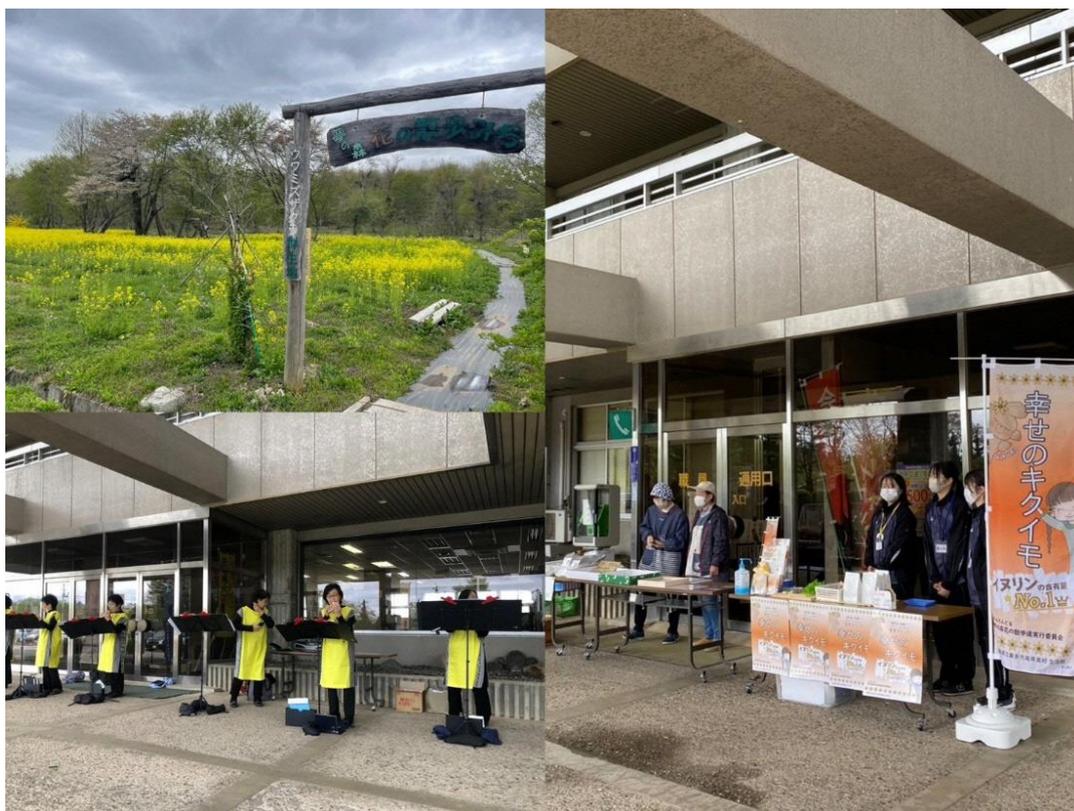
熱塩加納にはウワミズザクラやヤマザクラなどの食品や製品に活用できる地域資源が存在し、保全、活用する主体として、熱塩加納の地域住民、特に散歩みちの会員の方々の役割が大きいといえる。散歩みちでは、これらの地域資源に関わる活動として、周辺の草刈りといった環境整備による保全が図られ、塩漬けやキーホルダー、化粧水への加工することで活用もされている。この活動の背景には、散歩みちの会員が自分たちの地域に自生する植物の価値を認識し、様々な用途で活用しようとする姿勢が存在していると考えられる。そして、これらの活動は交流の機会創出と自己表現としても機能しているといえる。ヤマブドウのキーホルダーづくりを例に挙げると、加工作業を通じた会員同士、私たちのような地域外部者との関わりが生まれている。加えて、加工作業において、指導してくださった会員の方の得意分野である工芸品づくりを披露する場ともなっており、他者から評価が行われている。これらから分かるように、会員の手により地域資源を保全、活用されることには、地域の環境保全のみならず、交流の機会と地域における自分の役割認識が可能となるため、地域活性化の一助となっている。

3-3 イベント

3-3-1 主な活動

4月16日【夢の森花の散歩みちオープン式】

セレモニーは小さな子供からお年寄りの方までたくさんの地域の方が訪れ、地域の方のオカリナの演奏を聴くなど賑わっていた。午前中には、キクイモを植え、ウワミズザクラの塩漬けを利用したおにぎりが振舞われるなど地域資源を活用した昼食が振舞われた。



夢の森花の散歩みちオープン式の様子

10月28日 【ざる菊とココアの秋まつり】

団子汁の調理と、運営のお手伝いをした。運営は、輪投げ、スカットボール、お菓子釣り、バルーンアートと子供向けの屋内のブース、ポップコーン、玉こんにゃく、フランクフルトの屋外の販売ブース、交通整備に1人ずつ就き、それぞれ住民の方と協力して活動した。屋外で販売した食べ物は全て完売し、屋内でも幼稚園生から小学生まで多くの子どもたちが楽しく遊んでいたことから、大盛況だったと言える。

私たちが担当したブース以外には、団子汁のふるまいが人気だった。また、中学生による合唱やフォルティッシモの皆さんによるオカリナ演奏も秋まつりを盛り上げていた。



秋祭りの様子、振舞われた団子汁〈右下〉

3-3-2 イベントについてのまとめ

夢の森花の散歩みち実行委員会では、「四季の花まつり」としてそれぞれの季節に合わせたイベントを行っている。春には菜の花とウワミズザクラをメインとした「夢の森花の散歩みちオープン式」、夏には「そばの花まつり」、秋には「ざる菊とコキアの秋まつり」、冬には「雪灯籠」が開催される。これらのイベントは、老若男女問わず誰でも参加することができ、人々の交流の場となっている。高齢化が問題視されている熱塩加納だが、秋まつりでは私たちがバルーンアートや輪投げなどのブースの運営、食べ物の販売に参加し、それらを通して多くの子どもたちを地域に呼び込むことが期待される。

また、イベントの準備や運営を通して、地域内外において、人の結びつきが強められることに貢献している。例えば、おにぎりや団子汁作りの際には、会員が各自で自宅から材料などを持ち寄り、女性は調理、男性は力仕事といった仕事分担が自然と行われ、準備が効率良く進められていたことが挙げられる。これらから、何度もイベントの準備を経験することで強い結束力が生まれ、行政区を越えた住民同士のつながりが実現しているといえる。さらに、地域内の交流だけでなく、地域外の人が訪れることで新たな交流も生まれる。イベントをきっかけに熱塩加納を訪れ、地域の豊かな自然をはじめ、ざる菊や菜の花など四季折々の草花に触れることで、熱塩加納の魅力を知ることにつながる。このように、夢の森花の散歩みち実行委員会では、イベントを通して地域内外の人の交流が生まれており、それにより世代間交流、住民主体の地域づくりを実現しているのである。

4.考察（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点）

私たちは喜多方市熱塩加納地区大森集落と関わりを通じて、この地域づくりにおいて、地域住民の主体的な活動が大きな役割を担っていると考える。例として、前述した地域組織「夢の森花の散歩みち実行委員会」の存在や活動成果が挙げられる。この組織は、熱塩加納の高齢化や人口減少に伴う地域の活力低下を懸念から、住民有志によって地域おこしを実践している。その際、地域に自生するウワミズザクラやヤマブドウなどの植物に着目することで、地域資源の活用を進めるとともに、化粧水や皮製品といった制作過程において会員内の交流を生むきっかけともなっている。加えて、荒廃した土地の再生を目指し、健康食材として注目されるキクイモや菜の花、ざる菊といった四季折々の花々を植えている。これらにより環境保全だけでなく、年中を通して熱塩加納に地域の内外から訪れてもらえるイベントを計画することにも貢献している。こうした活動は、熱塩加納地域に愛着を持ち、地域の魅力や課題を共有し、将来について考える大森集落の野邊善市会長をはじめ、多数の地域住民の存在が大きいといえる。長く熱塩加納に住み、熱塩加納ならではの魅力や地域資源について最も理解しているからこそ、希少な植物を用いた地域資源の利活用や人を呼び込む上で必要となる地域の魅力の伝え方が優れている。

しかし、本会の課題として高齢化による人手不足や後継者問題が深刻となっている。こうした諸問題は、野邊氏は地域住民からの熱い信頼のもとで本会の中心的な役割を担っているがゆえに、本会自体の存続に関わると考えられる。

また、このような課題は本会だけでなく、地域全体の存続にも関わる問題であるといえる。私たちは高齢化による人手不足や後継者問題といった課題を克服するためにも、更なる地域資源の活用促進やそれに伴う交流機会の増加による地域の良さの内外への発信が求められると考察する。こうした私たちの考察は、住民の皆さんとのワークショップで各テーマのもと議論を行った結論とも一致することから、住民の方々も更なる地域活性化において交流を重視しているといえる。以上から住民の方々とは協力し、外部者と地域内部者の双方の視点から地域資源や地域について考えていくことが望まれる。

5.参考文献・資料

喜多方市,「統計きたかた(令和4年度版)」, (統計きたかた(令和4年版) - 喜多方市ホームページ (city.kitakata.fukushima.jp)、2024年2月1日取得).

喜多方市,「人口データベース 住民基本台帳」, (人口データベース - 喜多方市ホームページ (city.kitakata.fukushima.jp)、2024年2月1日取得).

喜多方市, 移住・定住ガイドブック「きたかたぐらし」, (名称未設定-2.indd (city.kitakata.fukushima.jp)、2024年2月1日取得).

総務省統計局,「令和2年国勢調査」, (<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?tclass=000001125102&cycle=0>)、2024年2月1日取得).

内閣府,「令和4年度高齢化の状況及び高齢対策実施状況 令和5年度高齢社会対策(令和5年版高齢社会白書)」, (20230620koreigaiyo.pdf (shugiin.go.jp)、2024年2月1日取得).